

増加する拠出金により さらなる財政悪化の見込み



健保連が2022(令和4)年度健保組合決算見込と今後の財政見通しを発表

健保連が発表した2022年度健保組合決算見込によると、経常収支は1,365億円の黒字で2年ぶりの黒字（依然として約4割の健保組合は赤字決算）となりました。これは新型コロナウイルス感染症により、高齢者拠出金が一時的に大きく減少したことによるものです。2023年度はその反動により再び赤字に転じ、その後も毎年増加する拠出金によるさらなる財政悪化が見込まれています。

● 2022年度決算見込と2023年度の財政見通し

	2021年度【決算】	2022年度【決算見込】	2023年度【推計】
経常収入計①	8兆3,827億円	8兆6,058億円(+2.7%)	8兆7,700億円(+2.0%)
保険料収入	8兆2,651億円	8兆4,890億円(+2.7%)	8兆6,600億円(+2.0%)
経常支出計②	8兆4,674億円	8兆4,693億円(+0.0%)	9兆1,300億円(+7.8%)
保険給付費	4兆2,472億円	4兆4,903億円(+5.7%)	4兆7,900億円(+6.6%)
高齢者拠出金	3兆6,515億円	3兆4,057億円(▲6.7%)	3兆6,500億円(+7.2%)
保健事業費	3,698億円	3,715億円(+0.5%)	4,600億円
経常収支差引額(①-②)	▲847億円	1,365億円	▲3,600億円
平均保険料率	9.23%	9.26%	9.27%
実質保険料率	9.35%	9.12%	9.66%

新型コロナウイルス感染症により高齢者拠出金が一時的に大きく減少

2022年度は保険料収入が対前年度比+2.7%(+2,239億円)増加している一方、保険給付費(医療費)が+5.7%(+2,431億円)と収入を上回り大きく増加しました。しかし拠出金が▲6.7%(▲2,458億円)と大きく減少し、保険給付費の増加分を相殺したことで、1,365億円の黒字の決算見込

となりました。

拠出金の大幅な減少は、新型コロナ感染拡大に伴う高齢者医療費の減少により、2022年度の概算額が減少するとともに、2020年度分の精算額が返還となったことによる、2022年度限りの一時的なものです。

高齢者拠出金は今後毎年増加、医療費も上昇傾向

2022年度は一時的に収支が改善しましたが、2023年度は反動により高齢者拠出金が前年度比+7.2%(+2,500億円)と急激に増加します。収支は▲3,600億円と再び赤字に転じ、2024年度以降、毎年増加する拠出金によりさらなる財政悪化が見込まれています。

また、直近2023年4月～6月の医療費(3カ月平均+6.2%)は、2022年度(年度平均+6.5%)に引き続き高い水準で推移しており、今後の動向を慎重に見極める必要があります。

● 高齢者拠出金の動向と見通し(粗い試算)



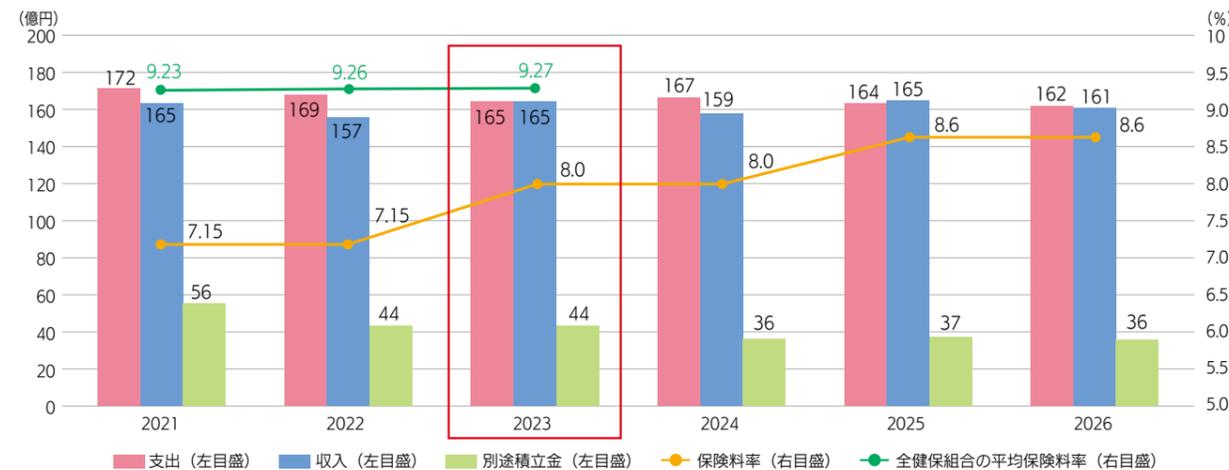
当健保組合の2022(令和4)年度決算の財政見通し

当健保組合の2022年度決算は、高齢者拠出金の一時的な減少にもかかわらず約11億円の赤字決算となりました。2023年度は健康保険料率を8.0%に改定したことで約5,000万円の黒字予算とすることができましたが、全国の健保組合と同様、当健保組合でも医療費、高齢者拠出金は今

後増加していくことが予想されます。

支出抑制の継続的な活動による効果を見込みつつ、財政状況や今後の見通し等について検討を重ね、堅実に運営してまいります。

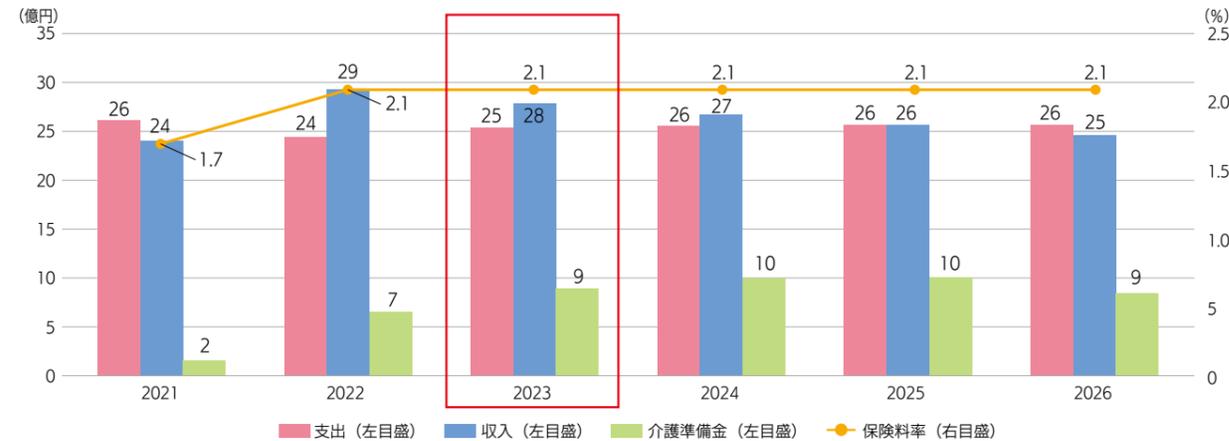
● IBM健保財政の推移 (注: 2025年度以降は保険料率を改定した場合のシミュレーション)



また、介護保険料率は当面は現行の2.1%で対応できる見込みですが、高齢化の進展に伴い介護費用は年々増大してお

り、介護納付金も増え続けています。繰越金を効果的に運用しながら、慎重に検討、料率を設定してまいります。

● IBM健保の介護保険財政の推移



2024年4月 前期高齢者納付金に報酬調整導入

前期高齢者の給付費の調整は、現在、加入者数に応じた調整が行われています。2024年4月から、現行の加入者数に応じた調整に加え、部分的(導入の範囲は1/3)に報酬水準に応じた調整(報酬調整)が導入されます。これにより、健保組合などの報酬水準の高い医療保険者ほど納付金の負担が重くなります。

